

第71回 青雲塾 報告

青雲塾担当 松井 繁幸 (第23期)
西尾 公一 (第25期)

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

1. 日時 2021年3月27日(土) 午前10時00分～11時30分 (質疑応答含む)
2. 場所 大阪大学中之島センター 講義室607
3. 講師 武部 好伸 (たけべ よしのぶ) 氏 (エッセイスト・作家)
4. 演題 『映画都市、大阪～東洋一の撮影所など～(大正、昭和初期)』
5. 講師のプロフィール



1954年 大阪市生まれ。大阪大学文学部美学科卒。

元読売新聞大阪本社記者。映画、ケルト文化、洋酒、大阪をテーマに執筆活動に励む。

日本経済新聞、映画Webサイト「シネルフレ」、大阪映画サークルなどに映画評、映画

エッセーを寄稿。ABCテレビ「おはよう朝日土曜日です」の映画コーナーにゲスト出演(不定期)。

日本ペンクラブ会員。関西大学社会学部非常勤講師。

<主な著作>

- ・『ウイスキーはアイリッシュ～ケルトの名酒を訪ねて』(淡交社)
- ・『シネマティーニ 銀幕のなかの洋酒たち』(淡交社)
- ・『ボビーズ・バー <洋酒の精>に乾杯!』(新風書房)
- ・「ケルト」紀行シリーズ 全10巻(彩流社)
- ・『スコットランド「ケルト」の誘惑～幻の民ピクト人を追って』(言視舎)
- ・『ウイスキー アンド シネマ 琥珀色の名脇役たち』(淡交社)
- ・『大阪「映画」事始め』(彩流社)
- ・『ヨーロッパ古代「ケルト」の残照』(彩流社)

<武部好伸 公式Blog> 酒と映画と旅の日々 <http://takebeyoshinobu.com>



6. 講師からひと言

大阪と映画——。あまり結びつきがないように思われますが、大阪は映画上映と興行の発祥地で、しかも大正中期から昭和初期にかけて、〈映画都市〉として名を馳せていました。「東洋のハリウッド」と呼ばれた帝国キネマの長瀬撮影所や羽曳野の古市極東撮影所など大小さまざまな撮影所が点在し、東京、京都に並ぶ映画製作の拠点でした。こうした大阪の輝かしい映画遺産について、画像をふんだんに使ってわかりやすくお話ししたいと思っています。

<武部講師が、当日終了後、facebookに投稿された内容をご紹介します>

「『映画都市、大阪～東洋一の撮影所など』

今朝、大阪大学中之島センターで、このテーマで講演してきました。😱

ぼくの出身の文学部ではなく、何と青雲塾という法学部のOB会で～

拙著『大阪「映画」事始め』(彩流社)の第三章をかいつまんで解説しましたが、大正末期から昭和初期に

かけて、大阪が東京、京都と並ぶ映画製作地だったことが意外と知られていないんですね～😞

だから、「語り部」として大阪と映画の関わりをの深さをもっと広めていかなあかんなあと思いました。

参加者の皆さん、勉強意欲旺盛で、講演終了後、質問が相次ぎ、1人のジェントルマン(帝塚山大学名誉教

授)から貴重な資料をもらえたのがすごくうれしかったです～😄」

7.青雲塾担当から

武部さんに青雲塾2回目の登板をお願いしました。5年前のケルト文化に続いて、今回は大阪の映画がテーマ。「鶴橋小橋に撮影所があったのか！」など驚きがいっぱいでした。

さて、私が担当の青雲塾は西尾新会長とタッグを組んだ今回が最終回となります。私が「雑俳」をテーマにお話をした、第24回 2009年2月から12年、48回にわたって関わって来ました。「長いことご苦労さん」「楽しかった」とねぎらっていただいたのは嬉しい限りです。

新年度からは、山西雅人(30期)・高橋慶吉(48期)両新副会長にバトンタッチ致します。清新なテーマで展開されることと楽しみにしています。

(松井)

8.写真



①記者経験に基づいた丹念な現場取材で映画撮影所を跡付ける武部講師

②井戸田博史さん(8期)<右>の質問に答える武部講師



③会議室全景

④⑤桜匂う大阪大学中之島センター

4月からの全面改修工事で、2年間は使用停止に。しばらくは見納めで名残惜しい。